

学校支援を積極的に進める

全家庭が参加し、教育活動を支援するPTA活動

～一家庭一役による学校支援の取組～

江南市立宮田小学校PTA

1 はじめに

本校は、江南市の北西部に位置し、令和元年度には創立110周年を迎えた。児童数は546名、学級数は20学級（通常学級17、特別支援学級3）、PTA会員数は、451名である。

祖父母・父母も本校出身という家庭も少なくなく、学校教育に対する関心は高い。教育活動に対しても協力的で、支援ボランティア



【校舎全景】

の活動など、様々な形で学校を支えようとする雰囲気のある地域である。

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

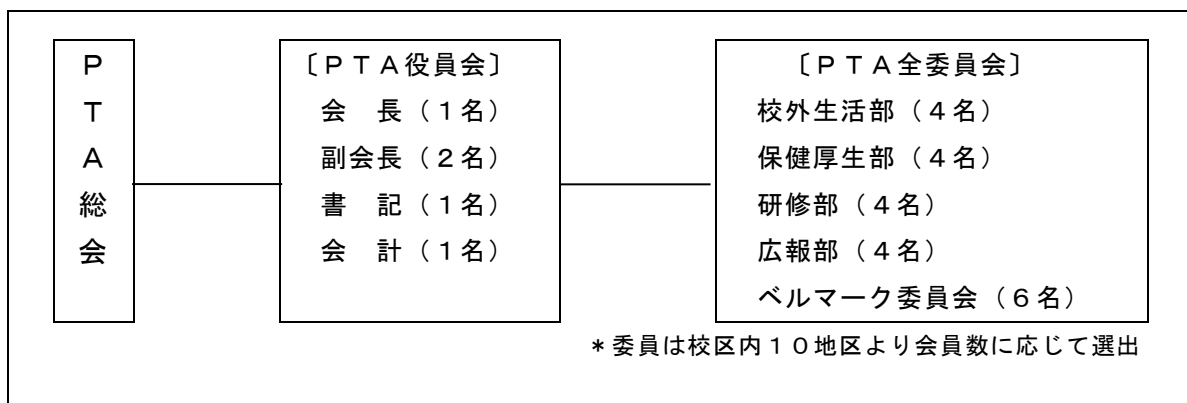
本校では、PTAの活動が組織的に行われ、大いに成果を上げてきた。しかし、児童数の減少や、共働き世帯の増加など、従来通りの活動内容・運営方法のままでは継続が難しくなるケースも出てきた。また、一部の役員・委員に過重な負担が係ることが少なくないという課題もあった。

そこで、様々なPTA活動に全ての会員が何らかの形で参加し、ともに子どもの健全育成を支える学校支援の取組として「一家庭一役」を構想し、研究を進めてきた。具体的なねらいは次の通りである。

- ① 保護者と学校のつながりを深める。
- ② 宮田小学校父母教師の会（宮田小PTA）の一員として、保護者全員で子どもたちの教育環境をサポートする、という意識を高める。
- ③ PTA会員（全保護者と全教職員）同士の交流の場とし、双方の理解を深め、よりよい協力体制をつくる。
- ④ 保護者がPTA活動をする姿を子どもたちが目にする機会とし、学校・家庭が連携して子どもの健全育成につなげる。
- ⑤ PTA活動を会員全体で支えるシステムとして活用する。

(2) 本校のPTA組織

役員5名、地区委員22名で構成され、4部1委員会で役割分担をしている。役員は各部・委員会の顧問として、活動のサポート役を務めている。



【宮田小学校PTA組織】

3 実践活動の概要

(1) 「一家庭一役」分担までの流れ

- ① 2月下旬、次年度の活動（依頼したい役割）一覧表と、希望調査用紙を次年度長子に配付した。希望が一部の役に偏らないよう、役割を大きく三つのカテゴリに分け、各カテゴリから希望順に三つの候補を出していただくようにした。主な活動は以下の通りである（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度は中止となった活動を含む）。

- | | | |
|--------------------------------------|------------------|----------|
| ・あいさつ運動及び校内環境整備 | ・資源回収補助 | ・夏休み校外指導 |
| ・運動会補助（前日準備、駐輪場整理、会終了後の後片付け） | ・ベルマーク整理作業 | |
| ・学校保健委員会への参加 | ・コミュニティ・スポーツ祭手伝い | |
| ・下校見守り（夏休み短縮に伴う授業日の熱中症対策として、本年度急遽実施） | | |

- ② 3月上旬をめどに希望を集約し、PTA役員が割り振り作業を行った。なお、新1年生のうち、上の兄弟姉妹が本校に在籍していない家庭については、希望調査をせず、こちらで役を決めて割り振ることとした。転入児の家庭についても同様の扱いとした。
- ③ 4月中旬をめどに個々の会員に割り振り結果を文書で通知し、活動を開始した。

(2) 活動の実際

- ① あいさつ運動及び校内環境整備
毎月1回の「あいさつの日」に行われるあいさつ運動に参加していただき、あいさつ終了後は、校内の環境整備活動に協力していただいている。あいさつ運動では、児童や隣接する中学校の生徒も参加し、気持ちのよい「おはようございます」が響いている。環境整備では、春から夏にかけては除草作業、秋は落ち葉の処理、冬はトイレ掃除



【あいさつ運動の様子】

を中心に行っている。いずれも児童の目に触れるところで活動が行われることで、様々な人が自分たちの学校生活を支えていることを実感することができ、児童の健全育成にもつながる活動であると考えている。

② 夏休み校外指導

夏休み中、校区内各所を回り、児童の様子を見たり、必要に応じ声かけをしたりする活動である。従来は、校外生活部員のみで行っていたが、校区には大きなショッピングモールもあって巡回範囲が広く、わずかな人数では効果的な指導・声かけが難しく、負担感も大きかった。一般会員の協力を得ることで、より多くの目で児童の様子を見ることができ、状況把握や声かけを効果的に行うことができた。

③ 運動会補助

運動会前日の準備、当日の駐輪場整理、終了後の片付けが主な活動である。従来は準備、片付けのみ有志のボランティアを募っていたが、やはりPTA役員・委員に頼る部分が多かった。一家庭一役を行うことで、あらかじめ参加者を把握することができ、役割分担が計画的に行えるようになった。その結果、時間的余裕をもって準備から片付けまでを終えることができ、駐輪場の混乱も見られなかった。スムーズな行事の運営は、学校にとっては大きな負担軽減であり、児童と向き合う時間の確保にもつながった。



【当日の一家庭一役受付】

④ ベルマーク整理作業

本校ではPTAベルマーク委員会が中心となって長年ベルマーク活動に取り組み、児童もボランティア活動で整理作業に参加している。毎年着実に収益を上げ、児童の学校生活に役立つ物品の購入に充ててきた。ベルマーク委員だけでは人手が足りないため、地域のボランティアの皆様の協力も得て活動を進めてきた。しかし、現状のままでは活動の維持に十分な見通しがもてないため、一家庭一役の一つとして、より多くの協力が得られるようにした。年9回の活動であるが、特に多くの人手が必要になる回には多目に人員を配置するなど、計画的な活動ができ、集計をスムーズに進めることができた。



【ベルマーク整理作業】

⑤ 学校保健委員会への参加

年2回開催する。1回目は、健康に関するテーマに沿って校医の話の聞いたり、5・6年の児童を対象に行われたアンケート調査結果について保護者・職員がグループで話し合ったりする。児童の健康について、保護者の思いに触れたり、問題意識を共有したりするよい機会となっている。2回目は、外部から講師を招き5・6年児童とともに講演を聞くという内容である。共通の話題にふれ、ともに健康について考えることで、親子のコミュニケーションを深めるきっかけになっている。



【学校保健委員会】

⑥ 下校見守り

本年度、夏休みの短縮により、気温の高い7月～8月に授業日が設定された。特に気温の上がる下校時、熱中症の危険が予想されたため、下校見守りを急遽募集することとした。活動内容は、小学校から自宅までの任意の「場所」もしくは「区間」で子どもたちの下校を見守ったり、適宜子どもたちへ水分の補給を促したりするなど、熱中症対策と交通安全対策をお願いするというものである。本年度は行事の中止や変更で、活動のなくなった一家庭一役もあったため、下校見守りに担当を振り替えていただくことにした。18日間で延べ350人あまりの協力が得られ、下校時の安全確保につながった。



【下校見守り】

4 おわりに

はじめに述べたとおり、本校のPTA活動は、地域の協力的な雰囲気もあって、学校教育を支える大きな力となってきた。しかし、従来の活動を踏襲するばかりでは、負担の偏り・形骸化は避けられない。今後も学校の支えとなる、持続的な活動を進めていくためには、より多くの保護者のPTA活動に対する理解を深め、担い手の一員としての意識を高めていくことが大切であると考えます。そのための手立てとして、一家庭一役の取組は、負担感を軽減しつつ、幅広い参加を促すという点で非常に効果的であった。今後も会員とのコミュニケーションを図りつつ、より効果的な学校支援のあり方を求め、研究を深めていきたい。